

155号
Spring
2021

まごころ



全国まごころケアネット



菜の花畠とパンジー

CONTENTS

卷頭言 「あの日(震災)」

孫子老だより ↗健康管理はユーモアと笑いで ↗

2 ↗ 4

センターだより

5 ↗ 7

寄稿「戦争体験を継ぐ」

8 ↗ 15

事務局通信

16

1

あの日(震災)



特定非営利活動法人
日本ケアシステム協会
会長 兼間 道子

全壊した街は、何処が道路かもわからない程、崩壊した。巨大な客船が山の中腹で傾いて、頑丈そうなビルでさえも枠組だけが残って、家々の一切は瓦礫に落ちて、跡形もなく無残。すでに収まった筈の津波が、私をめがけて襲ってくる錯覚に襲われた。

消防服を着た数名が重機を操縦しながら声をあげ、何かを探して掘っていた。荒れ果てた町並みに、写真アルバムや通学カバンから教科書が泥に塗れて阻まれ、思わず、絶叫、涙が溢れた。この世の出来事とは思えない光景だった。

10年が過ぎた「あの時」の現実が昨日のように脳裏をよぎり忘れる事はない。振り返る度に、その光景が心に突き刺さる。一瞬のうちに愛する家族を失った方を思うと、涙が溢れる。

政府は東日本大震災復興構想会議を即座に設置し、私は、委員として要請を受けて被災地を訪問し、「困りごと」を聞くことになった。急遽、体育館に相談所を設え、巡回及びSOS待機し呼びかけた。が、相談に出向いてくる人は疎らではほとんど機能しなかった。生き延びるために必死で、それどころではなかったに違いない。

防波堤工事やかさ上げなど大規模な公共工事は進んだが、地域生活の循環再建は遅れた。ハード面に莫大な予算を使うよりも犠牲者の暮らしの復興が重要だった筈だ。被災した方たちにとって何が最も必要か。10年を経た今でも4万人以上の方が仮設で、家族が離れ離れに暮らしている。これ以上先送りは許されない解決すべきは、お一人ひとりの生活回復にかかっている。精神的な安堵、支えが不可欠だ。希望で包まなければ生き続けることも難しい。復興の取り組みが着実に行われ一日も早く安寧な日々が戻ることを心から願う。

苦難の中にある方へ

「震災」のことを決して忘れることはありません、覚えています。一日も早く平安が訪れますように、心から謹んで祈りを捧げます。

まごころ 孫子老だより 健康管理はユーモアと笑いで

みなさま、お元気でしょ
うか。まだまだ収まる気配を見せないコロナ感染対策のおかげで風邪をひくことも、インフルエンザにかかることもなく今春を迎えました。親父ギヤグがすべったときのような厳しい寒さから、少しずつ寒暖を繰り返すような季節になりました。

暖かくなるにつれ花粉症だけは、コロナとは関係なく飛び回り、目鼻攻撃をしております。花粉症のみなさま、ご愁傷さまです。

三回目の成人式が近づく歳になり、健康に気を付けて生活しているつもりが、体重計に乗つてみたところ緊急事態宣言の発出です。コロナのせいばかりにできませんが、後戻りできない人生最大の増量です。山登りは中止、外出自粛、食欲は減つていないので小学生でも解ける計算です。

福岡のカレー店主が発案した「黙食／もくしょく」という言葉

うどん+むすび+天ぷら+運動ゼロ＝メタボというフイトネスクラブが、喜びそうな回答です。コロナ太りの中高年の増加で、終息後はダイエットに関連する食べ物や健康法、運動クラブが再燃しそうな気がします。

す。

昭和生まれの私でもコロナ感染が拡がつてから初めて耳にする言葉が、気になりましたのでお話ししたいと思います。まずは、「コロナ禍」です。初めて聞いたときは、ウイルスが渦のように感染することの形容詞かと思いましたが、「渦／うず」ではなく「禍／わざわい」の方の意味なのですね、ということは、「小遣い少ない禍」「妻うるさい禍」「子どもが言うこと聞かない禍」などいろいろな「禍」が感染前から私の周りでは、わざわつております。

ほかには「巣ごもり」という言葉、ふだんは、あまり口にしませんが、コロナ禍では、よく使われています。

外出を控え自宅で過ごすことを表すときを使いますが、そこで一句、「巣ごもりで 落ちる筋肉 付く脂肪」。

「黙親／話は、いいから稼ぎだけ入るて」

「黙夫／話は、いいから稼ぎだけ入るて」

「黙親／毎日うるさい、干渉禁止」

など、脱線しましたが、いろいろ

発想できますね。

緊急事態宣言の発出の「発出／

など、二匹目がいろいろ出てきました。私としては、「黙食／もくしょく」としては、「黙妻／少し黙つてほしい」、「黙姑／嫌味ばかり、うるさい」、「黙三男／甘えてくるな、でもかわいい」、「黙小姑／黙れ小姑」

など、二匹目がいろいろ出てきまし

た。私としては、

「黙妻／少し黙つてほしい」

、「黙三男／甘えてくるな、でもかわいい」

、「黙小姑／黙れ小姑」

など、二匹目がいろいろ出てきまし

た。私としては、

「黙妻／少し黙つてほしい」

<p

はつしゅつ」も初めて聞く言葉です。

私などは、景気低迷の影響で、小遣りした山の神に向けて発出したいと思します。すかさず「黙れ土下座野郎」とののしられ、宣言却下されるはずです。

毎年11月になるとボジョレー

ヌーボの解禁が、どのニュースでも取り上げられます。しかしながら焼酎党の私はこの「解禁」という言葉が、毎年引っ掛かります。解禁とは禁止されているものが解かれることを意味しますが、近所のスーパーでも、ボジョレーワイン解禁待ちの大行列などは見たことがありません。

しかも私は、恥ずかしながら飲んだこともあります。解禁というのは、「今月の風呂上がりの一杯は、健康維持のため今日で終わりです」と、月半ばで、山の神にお告げされ、我慢と忍耐の後に給料日に頂く一杯が、まさしく「解禁」と言う大変ありがたい言葉なのです。マスコミは解禁、解禁と、やたら軽々しく連發してはいけません。

ラジオ番組でテーマ「お願い」

について聞いた話を紹介します。「愛する妻へ、地震、火災、事故は、突然やります。私は、絶対にあなたを助けたいと思っています。君がいたおかげで今日まで幸せに暮らせてきました。これからも一緒に過ごすことができますか」と願っています。

災難がやつてきて君を抱えて逃げる状況があるかもしれません、しかし今の私の体力では、あなたを抱きかかる自信がありません、たぶん無理です。お願いです。あと7キロでいいのでダイエットして下さいお願ひします」脱コロナ太り宣言発出！

ド決済をすることが多くなりました。ポイントも貯まるので一石二鳥です。先日スーパーで弁当とお茶を買って6百円ぐらいの買い物でしたが、レジの若いアルバイトさんは、翌月1回払いによろしいでしょう

が足りないと不備を指摘。「野菜が足りない」さらに食事の時刻を書いています。

時々「ちょっと手が離せないのでお願い」のコールがあるときは主従関係が優先されます。手が離せない状況とは何でしょうか？鉄棒にでもぶら下がっているのでしょうか？こんな寒いとき動きたくないのはお互

い様ですが、やはり桃太郎は強く、きびだんごをも

らう方は従うしかないのであります。

クになるような気がしました。

まごから面白記事のご紹介

「終活保健指導を受けて」 四国新

聞令和3年2月1日 こだまより

72歳男性

しぶとく終活するために、保健栄養士の健康生活指導を受けた。

「食べ過ぎです。消化器官の酷使です。優しくしないと。あなたの場合は、身長体重からかんがみて…

1750キロカロリーでいい。時間をかけてゆっくり食べる。野菜から

ですよ。アルコールは今の半分にしおなさい」

私が持参した一日の摂取料理表を

おもむろに一見し、「これじゃ野菜

が足りない」さらに食事の時刻を書いていいないと不備を指摘。「野菜は

毎食。それも小鉢2皿は取ること。

いいですね。主食はパン、うどんよ

りも、ご飯がいい。腹持ちがいい自

然食品だから。加工食品のかまぼこ、

ソーセージ、ハムは添加剤が入って

いるので控えめに。ゆで卵をご飯代わりに？ 邪道！ 卵は一日2個まで。3時のおやつ、ですって…だ

めだめ、お菓子（きんつば）が食べたいならご飯の後にしなさい。血糖値が急上昇しますよ。血管、心臓を



痛めます。

作り置きでいいから数種類の野菜

を取らないとね、しっかりと」作り

置きでは野菜の栄養価が落ちるので

は? 「何言っているの、繊維質をと

るのよ。食塩は男性は一日6グラム

まで。みそ汁はもちろん、料理は薄

味で。うどん、ラーメンの残り汁は

すべて飲まない。メタボはダメ。ダ

サイしモテない。標準体重まで落と

さないとね。コロナ禍の中ですから、

そもそも改善の見込みのない人には

案内しません。見込みがあるから連

絡、つまりあなたは選ばれた人なん

です。頑張ってください」

言われっぱなしの1時間、食欲を

なくし帰宅した。ご指導ありがとうございました。

「お母さん」へ
「貴女は親切ね。優しくていいお母さんに育てられたのね。」

私は、お母さんの娘ですよ。

『自分』へ
「自分」へ

『母』へ
『母』へ

『ママ』へ
『ママ』へ

『お母さん』へ
『お母さん』へ

『二歳になる娘』へ
『二歳になる娘』へ

『おかん』へ
『おかん』へ

『夫』へ
『夫』へ

この間、口内炎ができたのを見てもらつた時、顔が近づいてドキッとしたわ、

久々に。

ワクチン接種も始まり、トンネルの奥からようやく光が見えてきました。
みなさまお元気で夏にまたお会いしましょう。

孫子老太郎

まごから「日本一短い手紙」のご紹介

丸岡文化財団主催

『お母さん』へ

「貴女は親切ね。優しくていいお母さんに育てられたのね。」

私は、お母さんの娘ですよ。

『自分』へ

説教中、親を笑顔で見つめたら もっと怒られました。もう私は天使でない

いようです。

『母』へ

俺が季節の変化に気づくのは、いつも、母さんのお弁当を開いたときです。

『旦那』へ

貴方を驚かせようとコツコツ貯めたへそくり、貯まりすぎて一生言えない

ごめんなさい

『ママ』へ

ママすきじゃない。だーいすき。 ことより

『お母さん』へ

お母さん、おならして、すました顔で、「はいどうも」と開き直るのやめて

下さい。

『二歳になる娘』へ

来年は、タンポポの綿毛を一人で飛ばせるといいね。ママは酸欠で、もう

倒れそうです。

『おかん』へ

おい、おかん。うたつとるときの声でおとんの電話にててやれよ。

『夫』へ

この間、口内炎ができたのを見てもらつた時、顔が近づいてドキッとしたわ、

久々に。



センターだより



まごころケア 旭川センター

旭川センターのコロナと仲間たち

センター長 武田 明子

昨年はコロナにあけてコロナに終わった一年でした。旭川は同時進行で三つの大きなクラスターが発生し、緊張感が漂っていました。全国から医療の支援をいただき、自衛隊の応援も得て、ようやくすべての終息宣言が出されました。

その後も数人単位で新規感染者の発表があり、まだまだ安心できない状況が続いております。幸運にも利用者の皆様、会員の皆様とともに感染者は出ておらず、一層気を引き締めているところです。

旭川センターではヘルパーにマスク、消毒液、使い捨て手袋、万一对のための防護服などの配布をした他、事務所への来所を基本月2回に制限し、毎月のヘルパー会議も書面で行っています。毎年一月恒例になつた新年意見交換会もできませんでした。とはいって、訪れるヘルパーさんたちの明るい笑顔はコロナの暗い空

気を吹き飛ばしてくれます。きっと利用者の皆様も同じ思いではないでしょうか。

コロナに加え、この冬は近年まれなほどの大雪で、気持ちまで閉ざされがちな利用者の皆様に明るい笑顔がとどけようと願っております。

ところで旭川センターには毎日走り回って頑張っているヘルパーさん

の他にも、普段は活動していないものの私たちを支えてくれる仲間がいます。ターミナルケアなど難しいケアにはぜひ先頭に立つてもらおうと

お願いしている経験豊かな先輩や、誰も入れず、シフトに穴があきそうなときにはいくよと請け合ってくれる先輩。

時々事務所に来て相談に乗ってくれたり、ヘルパー会議で適切なアドバイスをしてくれたりと本当に頼もしい存在です。まごころが心のよきところの一つと言つてくださる方々に感謝の毎日です。

まごころケア 塩釜センター

東日本大震災から十年に思う事

松葉 恵美子

先月の2月14日23時8分に、「震度6強」の地震がありました。

十年前の『東日本大震災』を思い起こす程の大きな地震でした。

直ぐ、テレビを点け「津波情報」を確認しました。(津波が発生する程の揺れでした)

テレビでは、「津波の発生が無い」事を報じており、先ずは「安心する」と共に直ぐ「一人暮らしの高齢者」が心配になり、訪問しました。

一人暮らしの高齢者は、訪問し顔を見せる事で、「安心した様子」でした。

今回の地震では、十年前の『東日本大震災』の教訓が生かされ、町内会の対応が素早く、地震の避難所を開設しました。

夜が明けてから、見回りを行いました。怪我人は居なかつたものの住宅被害は多々在りました。

「まごころ塩釜」に於いても、毎

月一回、ご利用様とスタッフで、「避難訓練」を実施しています。

「まごころ塩釜」は、高台に位置

しているので津波の心配はありません。主に地震と火災を想定して訓練を行っています。

クッショングで頭を覆い、地震が治まるまでスタッフが付き添います。

その後、歩行可能な利用者様と、車椅子の利用者様にスタッフは付添い、一緒に避難します。

毎月、避難訓練を行う事により、「落ち着いた対応」が行える様にしています。

今回の大きな地震は、「東日本大震災」から十年が立つて居ますが、今だ東日本大震災の余震と言われています。

今後も、まだまだ大きな余震が来ることが予想されます。

毎月の避難訓練を疎かにせず、そして継続して避難訓練を実施し、「東日本大震災」の経験と教訓を生かし、もしもの場合に「安全に避難出来る」様に、対応していくたいと思っています。

「まごころ塩釜」は、高台に位置

まごころケアサービス 福島センター

深夜の訪問

サービス提供責任者 泉 光江

を行っています。

2月13日 深夜、3・11を思い起

こさせる大地震がありました。

幸い福島センターの施設、利用者、スタッフに大きな被害はなくて安心しました。

お見舞いをお寄せくださいました

皆様、ありがとうございました。

そんな中、訪問介護員のWさんの行動に感動させられました。

自身の自宅も物が散乱するなど大変な状況の中、自宅の事は「大丈夫です！」と明るい声で言いながら、地震直後に危険も顧みず一人で暮らす3人の利用者宅へ訪問し、安全と動線の確保をし、翌日改めて訪問す

ることを伝えてくれたのです。

他にも、翌朝早めに訪問して片付

けをしてくれた介護員など、まごころは素晴らしいスタッフに支えられていると改めて感じさせられた日でもありました。

ワクチン接種も始まりましたが、一

般的に接種できるにはまだまだ時間が掛り終息の目途が立たない状況が続いています。

高齢者施設のクラスター（集団感染）が出た事もあり介護のあり方も変わっています。



まごころケア 屋島やすらぎセンター

訪問介護

た。

初めは「こんな研修は苦手やわ！」と言っていたヘルパーさん達も基本的に10分程度の短い動画なので見た

後は、玄関チャイムやエレベーターのボタンなど要注意箇所や1ケア1

コロナがパンデミック（世界的大流行）になり、見えない敵と戦った一年が過ぎ、人それぞれ大切な事を我慢してきた一年となりました。

ワクチン接種も始まりましたが、一

消毒などが分かりやすくて良かったと言つてくれました。

狭い場所ですがソーシャルディスタンス（社会的距離）を守るためなるべく間隔を開けて研修会に参加する人数を調整しながらオンライン研修も続けていきたいと思つています。



減つてきているようですが、まだ日常生活に戻るには程遠い状態が続っています。

過去に起こったウイルスによる伝染病に対して当時の人々がどのように対峙していたのかをみますと、わが国では約百年前の一九一八年（大正九年）にスペイン風邪（スペインインフルエンザ）が流行し、多くの命が失われたそうです。終息するのに二年の歳月を要したとのことで、その間に3回の大流行の波があつたということです。

第一波の流行では多くの感染者が出ましたが、死者はほとんど出なかつたようですが、第二波・第三波ではそれぞれ十八万人、二十六万人の死者が出たとのことです。こうした事態に対して、当時の政府の対応は現代と同じく「マスク着用や行動の自粛」の要請でした。

しかし行動の自粛は呼びかけられても実行されず、修学旅行等はそのまま続けられました。そのため、特に観光客が多い京都市では死亡率が東京より高かったとの記録があります。

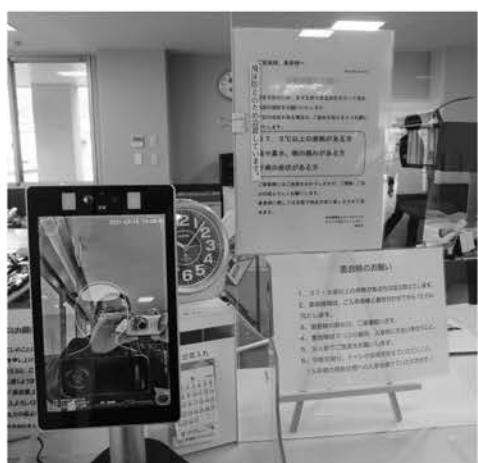
コロナウイルスによる感染者は

環境も格段と良くなり、今回のコロナウイルスによる死者も少ないですが、過去の経験をふまえこれからの感染対策に生かそうとしているよう

です。

まごころケア西春日では、入所者のフロアに入ることをご遠慮いただいている。やむを得ない事情がある時は、感染対策のうえ1階玄関のフロアにてお願いしています。

玄関やデイサービスの受付等には、自動の体温計や手指を消毒する機器を設置し入館時に体温やお名前などを記入していただいています。



が自由に交流できるよう願うばかりです。

また、感染症対策の専門家を講師に招いてマスクやウイルス防護ガウンの正しい着け方外し方、消毒の方法などについて、実地に研修しました。



ご利用者が食事をするテーブルには、飛沫防止のためのアクリル板を設置して感染防止に努めています。

一日も早くコロナ禍が終息して人々

まごころケア 西春日センター

感染症対策、歴史を振り返つてみると

センター長 笠井 圭介

コロナウイルスによる感染者は

もちろん現代は、当時よりは衛生

環境も格段と良くなり、今回のコロナウイルスによる死者も少ないですが、過去の経験をふまえこれからの感染対策に生かそうとしているよう

です。

寄稿 「戦争体験を継ぐ」

寄稿者：野上 さくら



太平洋戦争が終わり今年は76年目を迎えました。実際に戦場に赴いた方々はもとより、子供時代に戦争を体験された方々も徐々に少なくなりつつあります。

これらの記憶を風化させることなく後世に語り継ごうと、高校の卒業研究（卒業プロジェクト）のテーマとして取り組んだ研究成果をシリーズでご紹介しています。

第三章 高校生平和大使

- ・四章のはじめに
- ・「平和大使になるまで」

○書類選考原稿

- 「私が訴えたい平和への思い」
- 「無視しないで大人たち！」
- 「全然孤独じゃないやん！」
- 「ある外交官の言葉」

○国連歐州本部でのスピーチ原稿

- 高校生平和大使感想文集原稿
「福島の平和大使に出会って」
- ・高校生平和大使の学校での報告

四章のはじめに

そもそも高校生平和大使というものが何のことなのか。

高校生平和大使というの是一九九八年に長崎の平和団体によって発案された。毎年核兵器廃絶を求める人々の署名を集める高校生一万人署名活動を全国で行なっている。一年間で集めた署名を全国で選抜された高校生が、ジュネーブの国連欧洲本部に届けられ、平和大使らは核

兵器の廃絶を訴える。この活動は今年で二十二年目になる。

私は第二二代高校生平和大使に選ばれ、二〇一九年の夏、他の二二人の高校生とともにスイスジュネーブを訪れたのである。

高校生平和大使として行なったことは私一人の力では到底できないことだった。たくさん的人に支えられて、本当に大切な仲間に出会い、大切なことを学んだ。

だが活動すればするほど、「戦争のない平和な世界」と簡単にいうが、その実現がどれだけ難しいのかといふことも教えられた。知れば知るほど問題が見えてくる。「解決法を見つつけた!」と思つても、またいくつもの問題点に気がつく。

だがそれでも一つ一つ目の前にあることを解決しようと一生懸命考えることこそ、諦めないことこそ大事なんだということも学んだ。全国の高校生二十三人、一緒に学び、時にはお互い学ばせ合いながら過ごした。高校生平和大使として活動した夏休みは、私にとって夢のような時間だった。

高校生平和大使として核兵器廃絶

運動をしてきて思うことは、やっぱ
り核兵器は人類には扱えないもので
あり、必要ないものだということだ。

核兵器を持つことは弱いことであ
る。私たち人間は核兵器をちらつか
せ、脅し合うのではなくしっかりと
向き合つて話し合う勇気を持たなけ
ればいけない。

「平和大使になるまで」

「高校生平和大使」という言葉を

初めて聞いたのは、三月の下旬、戦争経験者の方にインタビューさせていただいた時のことだ。お話を聞かせていただいた後、ふと聞いてみようと思い「平和活動について知つていることはないか」と伺つた。

「平和大使だったかなあ。なん
か、高校生がやつてるらしいのよ。
けどね」

その時はあまり気にもしていなかつたが、帰つてふと調べて見た。
そこで私も応募できることを知り、迷つたが締め切りが迫つていたので急いで出願した。だが、五百人の応募者の中から選ばれるのはたつた二〇人ほどだったのでそれほどの期

もらうことを目標にはじめた署名活動である。

それまでは、卒プロ関係で関わる人で若い人はいなかった。だから、志を持つて活動する高校生、同じ年頃の仲間がいるということを知つて、勇気が出た。そして何より楽しめた。

しかし、ここでも人々の無関心は目立った。「核兵器廃絶に向けて署名活動を行っています。署名のご協力お願いします」と呼びかけても、署名してくださる方は本当に少なかつた。特に三〇代後半から五〇代にかけては面倒臭そうに通り過ぎていく姿が印象的だつた。きっとそんな人たちもいろんなことに疲れていた。特に三〇代後半から五〇代にかけては面倒臭そうに通り過ぎていく姿が印象的だつた。きっとそんな人たちもいろんなことに疲れていた。

「全然孤独じゃないやん！」

八月の初め、スイスへ行く前の打ち合わせや様々な準備、研修を兼ねて長崎に今年の平和大使たちはあつ



て、それどころではなかつたのだろう。それに署名活動をする以上、無視されるのは我慢しなければならない。だが、わかつてはいてもショックだつた。悲しく辛い気持ちになる。それでも無視されるばかりではない。私たちをちらつと見て通り過ぎようとした若い男性が立ち止まつて、私たちの方へ来て黙つて署名をしてくださつた。そして「頑張つて」と声をかけてくださつた。こんな人が一人でもいるなら、私たちが署名活動を続けていく意味はあると思う。

本当は「大人の皆さん、無視しないで！」と大声で言いたい。だが、もちろんそんなことは言えない。だから私たち高校生は活動する姿を見て、いつか無視する大人たちに立ち止まつてもらえるように活動を続けるしかない。私たち高校生たちはこの署名活動を次の世代へ引き継ぎ、この先もずっとずっと諦めずに続けるだろう。

まつた。この、三日間の研修には百人を超える高校生が参加した。一緒に活動するうち、「孤独じやない。みんな仲間なんだ」と思えた。

きっと、研修に参加した他の高校生もいろんな苦労をしてきた。だがみんなはきっと、互いの姿を見合い、「やつてきたことは無駄じやなかつた」と思ったはずである。

この時間が楽しすぎた私は思つた。「私たち高校生は何かを難しく議論するより、互いに楽しく交流することの方が大事だ」と。いや、本

当のところ、私たち子供はそうやって楽しむことで「世界の平和」に直に活動するうち、「孤独じやない。接働きかけることができる不思議な力を持っている気がする。

「ある外交官の話」

高校生平和大使の活動でいろんな国の外交官と話せる機会があつた。そこで聞いた話は私に大切なことを教えてくれた。

私はボーランドの外交官に、あなたにとっての平和はなんですかと聞いた。彼の答えはこうだつた。

「私には二歳の息子がいる。その子の目を見て何も恐れることはなく、夢を壊さないで成長を見られるなら、私にとっての世界は平和だ。」と。私はハッとした。私はその頃、高校生平和大使に選ばれて難しいことばかり考えていた。なぜ平和な世界を求めるのかということを、どんどんと複雑に考えていていた。そんな私に、結局突き詰めると、たどり着くところは一人一人の幸せなのだ、ということを気がつかせてくれた。

私たちは世界中に生きる人間一人一人の幸せや願いを守るために平和な世界を求める。その人自身、私自

身の幸せを考えることは、世界の平和を作ることなのだ。

私たちは難しいことを考えるのも必要だ。だが、「私にとつて平和とはなんだろう。あなたにとつての幸せはなんだろう。」そう考えることも同じぐらい重要なことなのだ。

卒業プロジェクトにこのテーマを選んで本当に良かった、と義務感ではなく心の底から思えた。

国連欧州本部でのスピーチ原稿（日）

本語

この冬私はガラスケースの中に原爆に焼かれた一つのお弁当箱を見ました。焼けたご飯は、朝お母さんが息子に作つたまま食べられることなく残っていました。その弁当は原爆は私たちのさやかな幸せを唐突に、そして残酷に奪い去つていくものだと教えてくれました。

ある週末訪れた戦争資料館には、私以外に誰もいませんでした。そのシンとした展示室の中で、私たちが戦争の苦痛や悲しみにどれほど無関心であるかを思い知らされました。そしてその無関心こそ私たちのさやかな幸せを奪うのだということも。

「核兵器のない平和な世界」を作るために世の中の一人一人が知らなければいけません。

お弁当を抱きしめて死んでいった少年は、私であり、あなたであり、私たちであり、武器を持つて戦わざるをえなかつた悲しい兵士でさえあるということを。そして、私たちはその過ちを認めなければいけません。戦争をし、核をつくりだしたのは私だと一人一人が認めるべきなのです。

核をなくしようと働きかけることができるのは今ここに生きる私たちだけです。私は核をこの世界から無くしたい。もう二度と原爆で私たちのさやかな幸せを奪わないために。

「あなたたちのように活動することが大切だ。」多くの方がそのように言葉をかけてくださった。私たちがこうして活動していることが世界に影響を与えていたのだということの意味ではわかつていなかつたのだ

と思った。多くの人は今までの私のように原発事故の被害者の人々を本当に知らないのだろう。だが彼女の言葉を聞いた私は「原発は無差別

たが、その中でも「原発と原爆」については特に考えさせられた。

私たちは、「核兵器の廃絶」を訴えるためにスイスで活動した。そして世界の多くの人が核の廃絶を求めているのだということを知ることができた。しかし、同じ力を持つ原子力発電については違つた。「危険性はあるが、現在は環境問題が深刻であるので、積極的に使うべきだ。」「原発は別。今、世界は核兵器の廃絶に向けて動き出した。原発を一緒ににしてしまつたら、せっかくの歩みを止めてしまう。」などの意見を多く聞いた。確かにそうだ。

だが、私は原子力発電所の事故の影響を直接受けた同じ二二代のメンバーと出会っていた。彼女は今もなお元の家には帰れないことや、原発

一方で最初に述べた原発と原爆を一緒に考へることの難しさも理解できる。環境問題も深刻だ。私はこの夏多くの意見を聞いた。その上で、これから先「核兵器について」と「核そのもののメリット・デメリット」

の両方にについて様々な視点からしつかりと考えていくたい。

私たちが理想とする世界、また核兵器廃絶への道は長い。しかし、世界はその道を確実に進んでいる。私たちはどんな時もその道を行こうとすることをやめてはいけない。私

りうる。事故を起こした日本は今後原子力での発電はやめるべきだ」と強く思った。そして、大切な友達を苦しめた、いや苦しめ続けるものを平和利用などと呼ぶことは到底できない。せめて日本では一刻も早く原子力発電はやめて他の発電方法に変えてきたように声を上げなければいけないのだと感じた。そうすることがこれから先、どこかで起ころる原発事故によって苦しむ人を再びうまなりのために私たちにできることではないだろうか。

これから先「核兵器について」と「核そのもののメリット・デメリット」の両方にについて様々な視点からしつかりと考へていただきたい。

高校生平和大使感想文集原稿

「福島の平和大使に出会つて」

「あなたたちのように活動することが大切だ。多くの方がそのように

言葉をかけてくださった。私たち

がこうして活動していることが世界に影響を与えていたのだということの意味ではわかつていなかつたのだ

と思つた。多くの人は今までの私のように原発事故の被害者の人々を本当に知らないのだろう。だが彼女の言葉を聞いた私は「原発は無差別

に大量の命を奪う恐ろしいものにな

るためには世界中の一人一人が知らなければいけません。

私たちは、「核兵器の廃絶」を訴えるためにスイスで活動した。そして世界の多くの人が核の廃絶を求めているのだということを知ることができた。しかし、同じ力を持つ原子力発電については違つた。「危険性はあるが、現在は環境問題が深刻であるので、積極的に使うべきだ。」「原発は別。今、世界は核兵器の廃絶に向けて動き出した。原発を一緒ににしてしまつたら、せっかくの歩みを止めてしまう。」などの意見を多く聞いた。確かにそうだ。

だが、私は原子力発電所の事故の影響を直接受けた同じ二二代のメンバーと出会っていた。彼女は今もなお元の家には帰れないことや、原発

一方で最初に述べた原発と原爆を一緒に考へることの難しさも理解できる。環境問題も深刻だ。私はこの夏多くの意見を聞いた。その上で、これから先「核兵器について」と「核そのもののメリット・デメリット」

の両方にについて様々な視点からしつかりと考へていただきたい。

私たちが理想とする世界、また核兵器廃絶への道は長い。しかし、世界はその道を確実に進んでいる。私たちはどんな時もその道を行こうとすることをやめてはいけない。私

ちがつくり出した私たちの道だから。

思います。

第三二代高校生平和大使のみんなに

感謝します。

絶えず支えてくださったサポーターの方々に感謝します。

私に重要な気づきをくださった全ての人々に感謝します。

二〇一九年九月一七日

京田辺シユタイナー学校（京都）野上さくら（三年）

高校生平和大使の学校での報告会原稿

おはようございます！

十二年生の野上さくらです。先生方こんな時間を設けていただきありがとうございます。この時間はきつと私にとつてもみんなにとっても必要な時間だと信じています。

この夏休み、私は第22代高校生平和大使として全国から選ばれた他の二二人、私を合わせたら二三人の高校生でスイスへ行き核兵器の廃絶を訴えるために活動してきました。

今回はこの活動の報告、それから活動をとうして私が感じたことや考えたことをみなさんと共有したいと

本題のイス派遣の話の前に、私が取り組んでいる卒プロについての話と高校生平和大使とはということについて少し説明しておきます。高部のみんな以外の人たちは私のテーマ発表を聞いていないと思いますから。

私は十一年生の夏頃から「戦争体験を継ぐ」というテーマで卒業プロジェクトに取り組んできました。終戦の日から七四年が経ち、太平洋戦争を経験した方から直接話を聞くことができるのは私たちの世代が最後です。私は戦時中の苦しみと痛みを知らないと本当の意味での平和は作っていけないのではないかと考え「戦争体験を継ぐ」というテーマに決めました。実際の戦争体験を聞くためにインタビューを何人かの方にさせていただきました。そしてその方たちの一人と平和活動についてお話ししている時に出てきたのが「高校生平和大使」という言葉でした。

その時はたくさんある平和活動のうちの一つとして捉えていたので忘れていてもおかしくありませんでした。数日後にふと「高校生平和大使」

という言葉を思い出して何気なくネットで調べたことが全ての始まりでした。

応募してから高校生平和大使になりましたがとにかく私は関西地区の全国枠という枠で選ばれました。

そして、この高校生平和大使とはなんのかを説明しておきます。

高校生平和大使というのは一九九八年にインドとパキスタンが相次いで核爆弾を行ったのを機に長崎の平和団体によって発案されたものです。今年で二二代になりますが毎年核兵器廃絶を求める人々の署名を集めため全国で高校生一万人署名活動という活動を行なっています。そして国連の欧州本部があるイスのジュネーブに行き集めた署名を届け、世界に核兵器の廃絶を訴えるのですが、そのために毎年全国で二十人ぐらいの高校生が選考会などで高校生平和大使として選ばれます。今年は二三人の高校生が選ばれたのですがその一人が私というわけです。

さて、説明はこの辺にして、そろそろメインの方に移りたいと思いま

第三二代高校生平和大使としてスイスに派遣され、そこで行なったこととその活動を通して私が感じ、考えたことをお話しします。

国際赤十字

スイス派遣一日目、ICRC赤十字国際委員会を訪問しました。IC

R Cは戦時の負傷者・捕虜の保護を目的として、一八六三年にアンリ・テュナンによって創立されました。ICRCは被爆で人道救護ができないという視点から核兵器廃絶という私たちと同じ目標を掲げています。ここでは被爆三世である平和大使らが祖父母の被爆体験をスピーチしました。

そして不可能を可能にするのは人々の持続的な努力と強い意志、あの日の惨劇を想像する勇気だ。そう強く語っていました。核兵器廃絶のために政治的なアプローチは必須。だからこそ、核兵器禁止条約は「希望の光」とおっしゃっていました。「核兵器の未来を決めてしまう前

に。」最後におっしゃっていたこの言葉が印象的でした。

ユニグローバルユニオン

ユニグローバルユニオンでは、イス、フランス、ドイツを始めとする十四ヶ国の方々と交流しました。

目指して活動をしている団体です。この活動には百二〇ヶ国以上の国が参加しています。核のない世界の実現における女性と少女の人権をアピールしています。

の傘に入っていることが重要である」と述べ、改めて核兵器禁止条約には否定的な意見を述べられました。しかし、日本の核武装の可能性は一〇〇%無いと否定をされ、また

ブショウに参加させて頂きました。このレセプションには全部で約三十の国の四十人ほどの大使が集まりました。



ユニーは労働組合の国際組織です。この組紐は I can (核兵器廃絶国際キャンペーン) という組織などと協力して核兵器廃絶に向けて活動しています。

ここでは十人の平和大使がスピーチを行い、職員の方と交流もしまし

ここでも十人の平和大使が核兵器廃絶を訴えるスピーチをしました。この時の意見交換では核兵器廃絶を実現するためには、もつともつと対話を重ねること、私たちが行なっている署名活動を支持する人が増えることが大切だという意見が印象的でした。また、平和の定義は弱い立場

日本の核兵器に関する最終的なゴルは廃絶である。と述べられました。ここでは福島県出身の平和大使が東日本大震災で被災した自身の体験を語り、放射能の恐ろしさを訴えました。

いて、ロシア、インド、パキスタン、フランスなどの核兵器保有国、そしてドイツ、イタリア、オランダなど、の核の傘の下に入っている国々の外交官と意見交換しました。まず、彼らに核兵器廃絶は必要か、という質問を投げかけました。すると、聞い

Y W C A

チを行い、職員の方と交流もしまし
た。

敬し合うことだとおっしゃつていま
した。また、平和の定義は弱い立場
の人に寄り添い合うこと、互いに尊
敬が大切だという意見が印象的で
した。

世界YWCAはイギリスの一人の女性によって設立されたもので、女性のリーダーシップによつて推し進められ、持続される世界の実現を

軍縮會議日本政府代表部表敬訪問

軍縮会議日本代表部を訪問し、高見澤軍縮大使に核兵器や軍縮に関する取り組みや見解、世界情勢などについて説明をしていただきました。

軍縮会議日本代表部を訪問し、高見澤軍縮大使に核兵器や軍縮に関する取り組みや見解、世界情勢などについて説明をしていただきました。私たちのはまず、日本が「核兵器禁止条約」を採択していなることに触

向き合つてくださつたことは事実です。アプローチは異なりますが、核兵器廃絶という同じ最終ゴールへ向かつていることを踏まえ、これからも我々は筋を通して核兵器廃絶を訴えていきます。

るかを問うと、肯定的な意見が多く見られました。「核兵器のおかげで戦争の力が弱まる」や、「国の安全のために必要不可だ」、「使わない。持っているだけだ」と主張する国もありました。

レセプション

いくのか質問をしました。高見澤大使は、「緊迫した世界情勢の中、日本の安全保障の面で、アメリカの核

私達は軍縮會議日本政府代表部を訪問した後、各国大使が集まるレセ

「歴史は繰り返される。」この言葉が現実となるのではないか、そのような危機を感じずにはいられません。一方で、国としては核兵器禁止

条約に反対していくても、個人的には賛成しているという声があつたのも事実です。国という抽象的な概念ばかりに囚われるのことなく、人間という対等なもの同士として互いを理解した上で主張する努力が、核兵器廃絶への一步に繋がる、そう確信しています。

また私はある外交官に「あなたにとつての平和はなんですか」と聞きました。彼は「私には二歳の息子がいる。その子の目を見て何も恐れることはなく、夢を壊さないで成長を見られるなら私にとっての世界は平和である」と答えられました。その時三人で聞いていたのですが、みんなでハツとしました。私たちは高校生平和大使に選ばれ難いこともたくさん考えてきました。でも結局突き詰めるとたどり着くところはここなのだと氣付いたのです。私たちは世界中に今生きる人間一人一人の小さな幸せや願いを守るために平和な世界を求めているのだと思い出しました。

トローゲン

この日私達はトローゲン州立高校

を訪問しました。また、ここで私は、トローゲン州立高校の皆さんに質問しました。質問の内容は、「核兵器を作る、または保持することは、戦争を予防し、平和な世界に繋がると思いますか?」というものです。この質問に対するトローゲンの学生の意見は、「NO」でした。彼女は、「国のお金は核兵器等を作るためにではなく、子供達の充実した教育や経済の発展に使うべきだ。市民を殺すのではなく、豊かにするために使われるべきだ」と答えました。レセプション等で、核保有国による核抑止論の主張も聞きましたが、彼女の話を聞き、本当の抑止力とは、軍事に力を入れるのではなく、その他のもっと重要なところに力を注ぐことなのだと確信しました。「核兵器について学ぶことはありますか」と聞くと、「歴史や物理の授業で学ぶことがある」という答えが返ってきました。日本では被害の大きさなど道徳的な視点で学ぶので、各国によって核兵器についての学びかたが違うとわかりました。

これを聞いて私は彼らのように技術的に核兵器を学ぶことも必要な

ことではありません。私は、学校で原子爆弾の仕組みを詳しく学びますか?最初の説明のところにも出てきましたが、本当の平和の実現のためには戦争を知らないでいると思います。これと同じで核兵器廃絶の実現のためには核兵器のその恐ろしい仕組みについても知る必要があるのではないか。もう二度と使われることがないよう願うからこそみんなでその仕組みについて学ぶのです。

国連欧州本部訪問

二日目は、国連軍縮会議の傍聴、そして、国連軍縮局で第二二代高校生平和大使二三人全員でスピーチを行いました。これが一番大きな出来事です。

長崎・広島であつたあの日の惨劇を伝えるとともに、福島・岩手からは震災を通しての経験、福島の原発事故の被害についても声にし、訴えました。

その後は、カスペルセンさんと意見交換を行いました。

互いに相手を認め合い、誰もを家族のように見れる平和な世界。誰に

ではないかと思いました。私たちは学校で原子爆弾の仕組みを詳しく学びますか?最初の説明のところにもません。そんな言葉に勇気をもらいました。

ハイデン

一日目に訪れた赤十字を設立したアンリデュナンの記念館を訪れました。

ここでは職員の方々と核兵器廃絶をめぐるお話をしました。私達の立場は一貫して核兵器の非人道性を知る若者として廃絶を訴えるというものなので、いつか使われるかもしれない核兵器を保持することはあってはならないと思っていますが「他国が核兵器を持っている以上、他国に攻撃されないために自国も核兵器を持たなければならない」という考え方を持つている人もこの世界には多くいます。この考え方は、核兵器廃絶の活動に取り組む中で何度も直面してきたものです。職員の方に、核抑止論のような自分達と反対の考えをどうやって変えて行けば良いのかと聞いてみると、「歴史に目を向けること。これまで人類は、争いを続けており、そこでは兵器が使われ

てきた。武力で争いを防ぐことは出来ないと知らなければならない」と答えて下さいました。

最後にアンリデュナンは「人間が滞在しているところすべてが故郷であり、世界にボーダーラインはない。紛争は戦争ではなく、話し合いによつて解決されるべきある。」という言葉を残しています。

この派遣を通して感じたことと考え方

たこと

核兵器の廃絶を訴える上で気づいたことは、核兵器についてと原子力についてです。核兵器の廃絶においてはこれまでスイスで話してきた人のほとんどが反対でしたが、原子力については核兵器廃絶に向けて世界が進み始めている今、核兵器と原子力を一緒にすることは核兵器廃絶の邪魔をするという考えの方もたくさんいました。核兵器禁止条約に加盟している国の中には原子力はこれらも使おうと考えている国もあるからです。カスペルセンさんもこの考

えにより、核兵器と原子力は別々に考えるべきだとおっしゃられました。でも私は少し胸が痛くなりまし

た。同じ高校生平和大使の仲間に福島から来た原発事故によって家に帰ることが今もできないという子がいたからです。私はその子に「原発も意図的に落とされないというだけでも一步間違えれば無差別に命を奪う原爆になる。そして事故が起きた後にもそれを動かし続けるということはもや意図的とも言える。」という

思いを聞きました。軍縮会議において原爆と原発をセットで考えるべきなのか正直わかりません。でも、少なくとも日本では原子力発電所は無くすべきだと、これまでより一層強く感じました。この問題は本当に難しい問題です。皆さんも核兵器と原子力発電の存在については考えて見てほしいです。

そしてたくさんの人のことばを聞いてこう考えました。自分の意見をしっかりと持ち相手を知ろうと努力することがどれだけ大切なのか。それぞれ違う意見なのは当たり前です。でも私は、それぞれの自分の意見に軸を持ちながらともに核兵器廃絶へと向かって行くべきだと思つてます。自分はもちろん認め同時に

力をする、その意見に興味を持つのです。

私たちがやっている平和な世界を求めるということは途方もなくやっこしいことで簡単なことではないと現実にも気が付かされました。平和な世界について考えるのはとても体力がります。でも私たちは考えることをやめてはいけません。世界は今どうなっているのか自分は何をしているのかよく見て考えなければいけないのです。

でもその時、平和な世界を求めるということは一人一人の小さな幸せを守るために忘れてはいけない大事なことだと私は思っています。皆さん大好きなことを思い出してください。これだけは失いたくないものを。大好きな人も食べ物でも。それぞれのその大切なものを守るために自分にはどうすればいいのか考えるということは世界の平和について考えるということだと思います。

また、男子が少ないので、性別関係なくいろんな人にこんな活動に興味を持つてもらいたいと思います。

高校生平和大使になるためには

くつかの選考会に出て、自分の考えをアピールする必要がありますが、もちろん全ての高校生が応募することができます。ちなみに署名を集めための活動である高校生一万人署名活動というものには、参加したいと思う気持ちがあれば高校生なら誰でも参加することができます。そして何より全国の高校生と交流することはとても楽しいです！

今日はこんな時間が持てて本当に良かったと思います。私が同じ年代の人とのような話ができることがこれから時代さらに重要なことがあります。でも今はそんな機会が少ないので、だからこの時間が皆さん少しでも関心を持つて自ら動き発信していくきっかけになつてくれたら嬉しいです。自分たちがこれから生きていく世界は自分たちで作り上げなければいけません。これから生きていく世界はどんな世界にしたいのでしょうか？ 私やあなたはそのためには何ができるでしょうか？

今日はありがとうございました。

2月13日土曜日の午後11時すぎ福島県沖を震源とする地震がありました。おそらく日本中のだれもが10年前の東日本大震災を脳裏に浮かべ、そして津波の恐れはないとの報道に胸をなでおろしたことでしょう。

福島県や宮城県で震度6強を観測した地震の規模はマグニチュード7・3のこと。気象庁によればこの地震は東日本大震災の余震で、マグニチュード7以上の余震は5年ぶりだそうで、この余震は今後10年も続きM8以上になる可能性もあるという。改めて地球規模の営みの時間軸の長さを感じました。

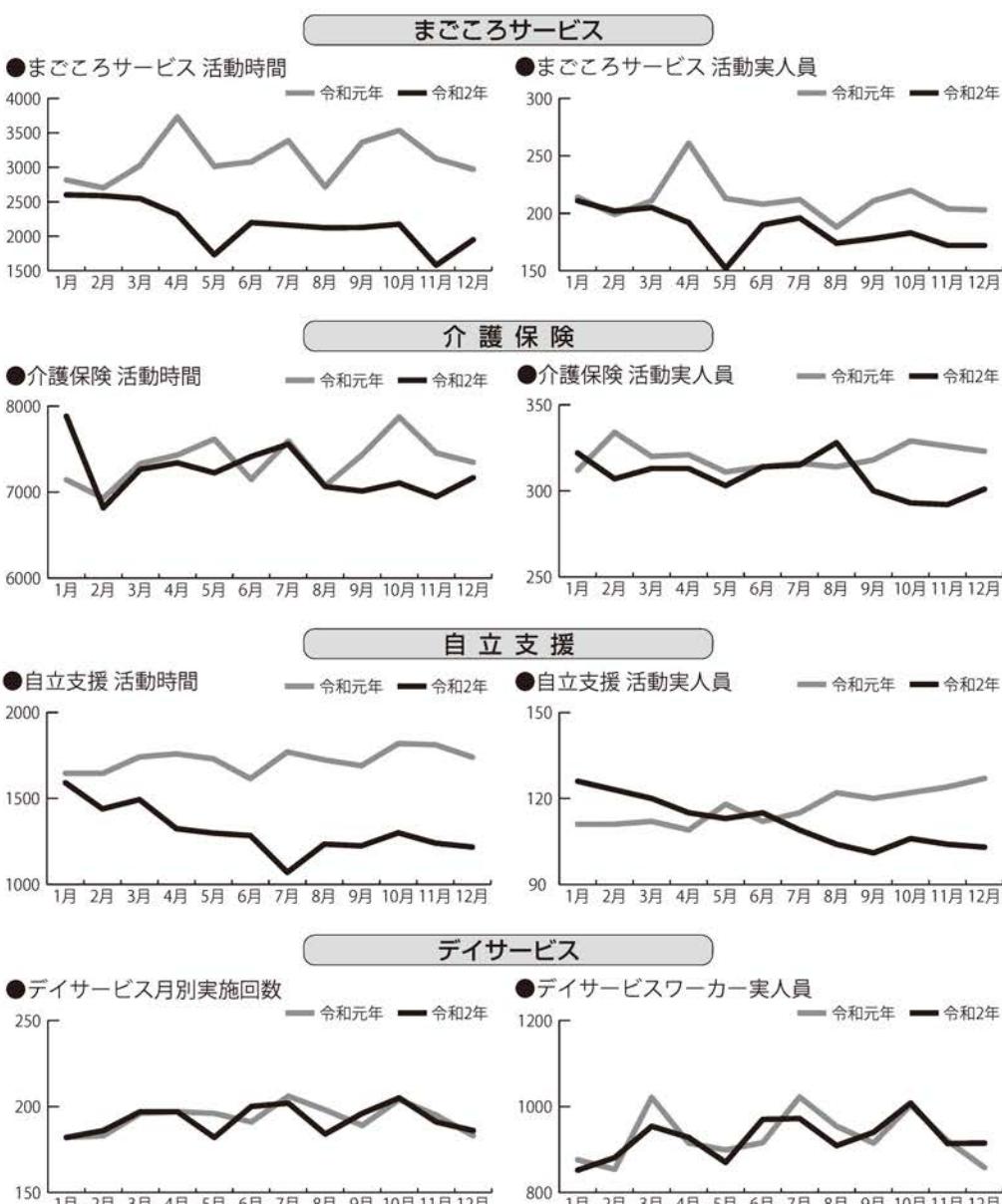
新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言が出されていた都府県のうち、2月末に都市圏（1都3県）を除く6府県（大阪、京都、兵庫、愛知、岐阜、福岡）が解除されました。

その後、都市圏（東京、埼玉、千葉、神奈川）でも3月21日まで解除となりました。しかし、全国で変異株の感染なども報道され、予断を許さない状況が続いています。このような状況のもと、日本ケアシステム協会としても例年であれば総会の会場設定などの準備にかかるところですが断念せざるえない状況が続いています。今後ワクチンの接種などにより一日も早い終息を願うばかりです。普段の状態を取り戻すまで今しばらくはともに感染防止に留意しながら頑張りましょう。

各センターから毎月報告をいたしている各種取り組みの実績集計ができましたので報告いたします。

令和2年の実績と令和元年との比較をしたところ、「まごころサービス」について、年間を通じて令和2年の活動時間、活動人員はともに大きく令和元年を下回っており、コロナウイルス感染による影響が顕著に表れています。「介護保険の訪問サービス」は活動時間、活動人員とも月によって2年度の減少幅にばれます。

らつきがあり、「障がい者自立支援法によるサービス」の活動時間は全期間を通じて令和元年より減少していました。「デイサービスの実施回数やワーカーの実人員」については月別にばらつきがあるものの全体としては令和元年を下回っている傾向が読み取れます。



<p>介護保険業務の 様々なご要望にお答えします</p>	<p>はじめて まいたうんメール便 です 高松メールセンターからのご案内 メール便… ハガキ 封書 カタログ など</p>	 Achieve everyday
<p>介護保険トータルシステム「RelyⅢ」 株式会社 アール・シー・エス</p>	<p>お問い合わせは こちらから (有)タウンネット 高松メールセンター 高松市朝日町4丁目10番60号 TEL.087-813-0426 FAX.087-813-0436 E-mail takamatsu@carol.ocn.ne.jp http://www.shikoku-mp.com/</p>	<p>〒760-0062 高松市塙上町7-2 TEL:087-837-1159 FAX:087-897-3007 www.network-way.com WEB・システム グラフィックデザイン イベント企画・運営</p>
<p>あいおいニッセイ同和損保代理店</p>	<p>ハイエース・シエンタ・エスクァイアなど 福祉車両のことなら 香川トヨペットにお任せください！</p>	<p>総合印刷・イベント事業・マニュアル制作 デジタルコンテンツ企画制作</p>
<p>(株)フリーエージェント *損保・生保・社会保険労務士* 扱っています。</p> <p>高松市伏石町 2028-2 TEL 087-816-8123 FAX 087-815-1171</p>	<p>  詳しくは香川トヨペットまでご連絡ください。 087-882-5561</p>	<p> 株式会社 高松 東京 成光社 〒760-0065 高松市朝日町5-14-2 TEL 087-823-0222 FAX 087-823-0211 www.seiko-sha.co.jp</p>
<p>実務者養成施設</p> <p>介護福祉士実務者研修<通信課程></p> <p>★4月から翌年3月まで毎月受付 「年12コース」各コース定員24名 ★全国どこからでも応募できます ★スクリーニング(通学)は 「医療的ケア演習」を含み6.5日間</p>	<p>地域とともにこれからも。</p> <p></p>	<p>消防設備士の店</p> <p>四国防災設備有限公司</p> <p>消防設備保守点検</p>
<p>【照会先】 ラポールカレッジ 研修所 / 事務局 TEL 087-815-0760</p> <p>〒761-8052 高松市松並町 802番地1 / 日本ケアシステム協会内 駐車場有り(無料)/宿泊1,000円~</p>	<p> トモニホールディングス</p>	<p>〒761-0612 香川県木田郡三木町氷上1833-6番地 TEL(087)898-3913 FAX(087)898-8801</p>

ご利用ください。

● E-mail (電子メール) ●



magokoro@hyper.ocn.ne.jp

● URL (ホームページ) ●



<http://www.jp-care.gr.jp>

編集後記

コロナ禍の中にあっても、こういう時だからこそ柔軟な発想で、その状況に適合した新しいことに挑戦する人たちの報道を目にします。

そんな時「気持ちを切り替えてもう少し頑張らなければ」と勇気をもらいます。

「ウイルスの大流行は必ず終息する。これは歴史的に明らか」と専門家は言われますがそれがいつかは不透明なようです。

大雪に見舞われるなど厳しかった冬が終わり、桜前線は例年より早く北上し始めました。

美しく咲き誇る桜をはじめ春の草花に癒され、元気をもらいながら、今しばらくがんばりましょう。

全国まごころケアネット
特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会
まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokolo@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jmss@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂宇南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0903 福島県二本松市根崎1-9	kuwabara.masaaki@ivory.plala.or.jp	0243-22-0112	0243-22-0112
まごころサービス 国見センター	〒969-1761 福島県伊達郡国見町藤田日渡四18の1	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア千葉	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-23-15 グランドウール第2-107号	magokoro12315@nifty.com	043-274-9711	043-274-9718
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川44番地	sqkg13630@leto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市中区関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@lime.ocn.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	ajisai@eagle.ocn.ne.jp	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	mailka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころケア西春日	〒761-8051 香川県高松市西春日町1510番地1	keisuke64kasai@gmail.com	087-869-1165	087-869-1195
まごころサービス 徳島センター	〒770-0923 徳島県徳島市大道3丁目22-1	magokoro@coral.plala.or.jp	088-624-6578	088-624-6585
まごころケア ぽつかぽか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	tani280610@yahoo.co.jp	0896-59-1150	0896-59-1150

「日本ケアシステム協会」会報
 令和3年4月1日 発行No.155

発 行 所 〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL087-815-0771 FAX087-815-0773
 編集発行人 兼間 道子
 郵 便 振 替 口座番号 01610-0-92689
 印 刷 所 (株)成光社

まごころケア高松
 NPO法人 長寿社会支援協会

〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL087-865-8001 FAX087-865-8039
 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp
 URL http://cho-jyu.info/